

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	7	大学等名	崇城大学
テーマ	テーマ I アクティブ・ラーニング		

【総括評価】

B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

【コメント】

<優れている点>

- ・全学一体的な推進体制のもと、グローバル技術者育成を目指し、アクティブ・ラーニングの基盤となる自律学修マインドの醸成を目的とした取組が段階的に無理なく前進していることが認められる。特に、学生の主体的学びを促す有機的な循環を目指していることは評価できる。
- ・取組を進めるにあたって、学生の学修への向き合い方に関する専門分野の異同を考慮していることは優れており、学外への普及の段階において意義を持つものになると考えられ、評価できる。他大学との連携を図りながら、引き続き検討を深めることが望まれる。

<改善を要する点>

- ・「ファカルティデベロッパー（FDer）錬成会」の実質的な内容が不明瞭である。特に、FDer 錬成会において身に付けるとされている「学習アドバイジングスキル」の具体的な内容や、教員と学生のどのような視点を共有することによって、いかなる示唆が得られたのかが不明確である。この点は本事業成果の普及の段階において重要な示唆や知見を提供しうると思われるため、補助期間の中間期において整理し、明確化することが必要である。
- ・学生の主体的な活動の展開への、教職員の対応が不明である。教職員の本事業での役割、活動内容、学生への対応等を一層明確にする必要がある。
- ・PDCA サイクルについては、特に評価（C）の取組をより一層強化する必要がある、学生を対象にした全学的なアンケートや卒業生調査等の企画実施を早急に進めることが必要である。また、取組の発信という点では学会等での発表も意義はあるが、PDCA サイクルの観点においては、本事業の取組に対して、いかなる指標で、どのような検証結果を得て、どのように改善課題を特定したのかを明確化する必要がある。
- ・体制的な継続性においては、SD の観点から職員の関わり方や位置付けについても明確化することが必要である。
- ・学生の主体的学びの達成度の指標の明確化については急務の課題である。特に、SOJO ポートフォリオ（とりわけ「学修到達度ポートフォリオ」）を通じて得られる情報や客観的なエビデンスに基づき、次期の取組に反映させていくようなサイクルの形成の促進が必要である。